



ロシア文化フェスティバル 2015 IN JAPAN  
Фестиваль российской культуры в Японии-2015



死後110年を過ぎてなお  
作品が世界中で上演され続けているアントン・チェーホフ。  
その戯曲第一作が、ロシアの演劇大学生たちの真摯な演技で今、よみがえる。

ワフタンゴフ記念国立アカデミー劇場付属  
B・シューキン記念演劇大学劇団日本公演

私は、  
人間の不公平さに  
驚いているの。  
なぜ愛情は愛情で応えられず、  
真実の代償が嘘なの？

# DAHLIA

アントン・チェーホフ原作  
演出：ミハイル・セマコラ



2015年 6月2日(火) 劇場シアターX(両国) 全席自由2,000円 開場18:00 開演18:30  
6月3日(水) 東京外国語大学プロメテウスホール(多磨) 開演10:10 大学関係者対象:入場無料  
6月4日(木) 早稲田大学小野記念講堂(高田馬場) 開演18:15 一般入場者含め先着200名様。(予約はロシアン・アーツへ)入場無料  
6月6日(土) 桐朋学園芸術短期大学小劇場(仙川) 開演15:00 大学関係者対象:入場無料

問い合わせ先:ロシアン・アーツ TEL:03-5919-1051

主催:ロシア文化フェスティバル日本組織委員会

共催:劇場東京両国シアターXカイ 東京外国語大学総合文化研究所 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館  
桐朋学園芸術短期大学

後援:ロシア連邦外務省、ロシア連邦文化省、駐日ロシア連邦大使館、ロシア連邦文化協力庁、日協会、INARTEX



JAPAN AIRLINES



# B・シューキン記念演劇大学劇団日本公演

アントン・チェーホフ原作

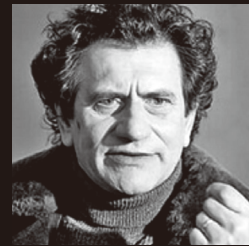
# イワノフ

# ANNOB

## B・シューキン記念演劇大学とは

クニャーゼフ学長

創立100年を迎えたロシアの名門演劇大学のひとつ。2008年にロシア文化フェスティバル IN JAPANの一環として来日公演が行われ（演目はL・アンドレーエフ作『我らが人生の日々』）、日本の演劇関係者、学生をはじめとする観客に大きな感動を呼んだ。学長はロシア連邦人民芸術家・俳優のE・クニャーゼフ。



それでも貴方を愛して、ひとときも放っておいたことはなかったわ

## あらすじ

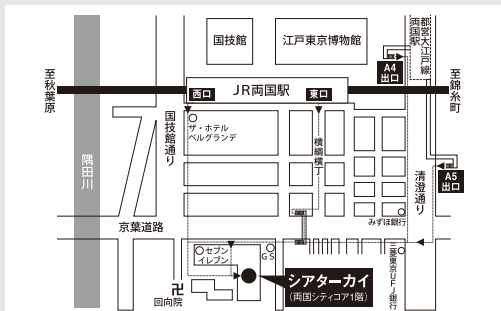
かつては理想の実現を夢見て精力的に活動していたイワノフだったが、行き詰まり、経済的にも苦しくなる中、今は何もする気になれない。熱烈な恋愛結婚をした妻アンナへの愛情も冷めてしまった。そんなイワノフに思いを寄せる若いサーシャ。イワノフはサーシャに愛を告白され、かつての活力がよみがえったような気がしたのだが…。



## キャスト

- イワノフ：ドミトリー・ニコノフ
- アンナ（イワノフの妻）：アントニーナ・パベルナヤ
- シャベリスキイ（イワノフのおじ）：パーヴェル・テヘダ=カルデナス
- レーベジェフ：イヴァン・ヴォロトニヤク
- ジナイーダ（レーベジェフの妻）：ムラダ・アッケルマン
- サーシャ（レーベジェフ家の娘）：ナターリヤ・イグリナ
- リヴォーフ（若い医師）：ドミトリー・マリツェフ
- ババーキナ（若い寡婦）：エカテリーナ・ルイジユク
- コスイフ（税務署員）：アレクサンドル・リミン
- ボールキン（イワノフの遠い親戚、彼の領地の支配人）：アレクサンドル・ゴルバトフ
- アブドチャ（なんでも屋の老婆）：エカテリーナ・オメリチュク
- ガヴリーラ（レーベジェフ家の従僕）：セルゲイ・グリシチェンコ
- 客人：ミハイル・オゾルニン、  
アンドレイ・イルキン、  
セルゲイ・ソツェルドツキイ、  
イヴァン・ステパシュコフ

- 演出：ロシア連邦功労芸術家、教育学准博士、教授ミハイル・セマコフ
- 演劇大学芸術監督：ソ連人民芸術家・ロシア連邦国家賞受賞者、教授ウラジーミル・エトウシュ
- 演劇大学学長：ロシア連邦人民芸術家・ロシア連邦国家賞受賞者、教授エフゲーニイ・クニャーゼフ
- 美術：A・ベリコフ
- 音楽：P・ガルキン
- 照明美術：I・パドチェンコ
- 衣装担当：S・ミロシニチェンコ、E・ミロシニチェンコ
- メーキャップ：A・グリジナ



## 劇場東京両国シアターXカイ



- 〒130-0026 東京都墨田区両国2-10-14 両国シティコア1階 ☎03-5624-1181
- JR総武線両国駅西口下車 左へ徒歩約3分
- 都営地下鉄大江戸線両国駅A4・A5出口 徒歩約8分